

龍谷大学 履修要項  
2025年度 社会学部

🕒 最終更新日：2026年3月17日

2025年度入学生

社会学部

## 2025年度入学生 社会学部 メニュー

### 「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」

>

- 社会学部の教育理念・目的 >
- 社会学部の卒業認定・学位授与の方針 [学士 (社会学)] >
- 教育課程編成・実施の方針 >

### 社会学部の教育課程

>

- 【1】卒業要件単位数 >
  - (1) 総合社会学科における卒業要件単位数 >
  - (2) 学部共通コースにおける卒業要件単位数 >
- 【2】カリキュラムマップ >
  - ◆現代社会領域 >
  - ◆文化・メディア領域 >
  - ◆健康・スポーツ社会領域 >
  - ◆現代福祉領域 >
- 【3】社会学部の設置科目 >
  - (1) 総合社会学科の専攻科目 >
  - 基礎教育科目A群 >
  - 基礎教育科目B群 >
  - 専門教育科目群 >
  - プロジェクト科目群 >
  - ライフデザイン科目群 >
  - 卒業論文科目 >

### 専攻科目の教育目的および履修方法

>

- 【1】専攻科目とは >
- 【2】専攻科目の履修方法 >
  - (1) 「必修科目」「選択必修科目」について >
  - (2) 先修制について >
- 【3】「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」 >
  - 1. キャリア啓発科目 >
  - 2. キャリア形成科目 >
- 【4】卒業論文 >
  - 1. スケジュール >
  - 2. 書式 >
  - 3. 提出 >
- 【5】科目ナンバリング >
  - 社会学部開講科目ナンバリング >
  - ナンバリング科目分類・略語表 >
  - 【総合社会学科】科目ナンバリング >

### 諸課程

>

- 【1】社会調査士資格 >
- 【2】社会福祉士国家試験受験資格 >

- 【3】精神保健福祉士国家試験受験資格 >
- 【4】社会福祉主事任用資格 >
- 【5】児童指導員任用資格・児童の遊びを指導する者任用資格 >
- 【6】諸課程 >
- 【7】特別研修講座・各種講座・試験 >

# 「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」

## 社会学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、多様な価値観が錯綜する現代において、人が営む共同体である「社会」のあり方を学び、人と人、人と組織や社会との関わり方やそこで発生する諸問題の分析・解決の視点と手法を身につけた人間を育成することを目的とする。

## 社会学部の卒業認定・学位授与の方針 [学士 (社会学)]

社会学部の「教育理念・目的」にもとづき、社会学部が示す資質・能力を身につけたことが客観的に確認され、かつ必要な在学期間と卒業要件単位数を満たした者に対して、教授会の議を経て「学士 (社会学)」の学位を授与する。

### <社会学部 総合社会学科の学生に保証する基本的な資質・能力>

①：建学の精神の具現化	<ul style="list-style-type: none"><li>建学の精神の意義について理解している。</li></ul>
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"><li>外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。</li><li>諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。</li><li>広い視野から社会の諸問題を把握し、解決するための基礎的な知識・技能を身につけている。</li></ul>
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"><li>外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。</li><li>幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。</li><li>社会の諸問題を論理的に分析し、解決の方向性を考え、それらを表現するための知識・能力を身につけている。</li><li>また、社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身につけている。</li></ul>
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"><li>社会の諸問題に対する強い関心・興味をもち、持続可能な共生社会の実現に向けて、主体性をもって多様な人々と協働しながら取り組むことができる。</li></ul>

また、学部共通コースの学生に保証する基本的な資質・能力は以下のとおりである。

### <国際関係コースの学生に保証する基本的な資質・能力>

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"><li>世界の国・地域に関する幅広い知識と外国語による一定のコミュニケーション能力を身につけている。</li></ul>
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"><li>幅広い知識と一定のコミュニケーション能力を活用して、国際社会が直面する諸問題について多角的に思考・判断・考察するための能力を身につけている。</li></ul>
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"><li>異なる価値や文化に関心を抱き、それらを積極的に理解しようとする態度を身につけている。</li></ul>

### <英語コミュニケーションコースの学生に保証する基本的な資質・能力>

①：建学の精神の具現化	
②：（③の基礎となる）「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語圏での日常生活に支障のない英語の技能を身につけている。</li> <li>英語圏の言語や文化を理解し、国際的視野を備えている。</li> </ul>
③：（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>異なる文化や価値観を理解した上で、英語で他者と意見交換できる柔軟な思考力・表現力を身につけている。</li> </ul>
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らもしくはチームで目標を定め、英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができる。</li> </ul>

### <スポーツサイエンスコースの学生に保証する基本的な資質・能力>

①：建学の精神の具現化	
②：（③の基礎となる）「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代のスポーツ関連領域で提起される諸問題について、的確に評価・分析するために、社会科学とスポーツ科学の知識や方法論とを合わせた複合的な視点を身につけている。</li> <li>客観的な評価・分析を行える基礎的スキルを身につけている。</li> </ul>
③：（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代社会におけるスポーツ諸事象について学際的・多面的視点から理解・探求する思考力や判断力を身につけている。</li> <li>導き出した見解を文章等にまとめ、発表し、議論することができる。</li> <li>健康づくりや競技力向上のための指導といったスポーツの現場に必要なコミュニケーション能力やマネジメント能力の基礎的知識と応用力を身につけている。</li> </ul>
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ諸事象を人間・社会への洞察にもとづいて理解し、スポーツを社会の発展のために役立てようとする意欲や態度を身につけている。</li> </ul>

### <環境サイエンスコースの学生に保証する基本的な資質・能力>

①：建学の精神の具現化	
②：（③の基礎となる）「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境問題発生メカニズムを文献と現場から理解し、人と自然とが共存する資源循環型の持続可能な社会を構築するための知識を身につけている。</li> </ul>
③：（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然、社会、人文に関する幅広い知識・技能を活用して、持続可能な社会の実現のために環境学の視点から必要な技術や制度について思考・判断・考察するための能力を身につけている。</li> </ul>
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>人と自然とが共存する資源循環型の持続可能な社会の実現のために多様な人々と協働しながら主体的に行動する態度を身につけている。</li> </ul>

### <学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法>

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。</li> <li>2. 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位を必要とする。</li> <li>3. 卒業認定を受けるためには、「卒業論文」に合格しなければならない（学部内領域生）。</li> <li>4. 学部共通コース所属学生は、所属コースの修了要件を満たすこと。</li> </ol>
--

### <国際関係コース修了に必要とされる単位数及びコース修了認定の方法>

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、国際関係コース運営委員会が修了を認定する。</li> </ol>
---

2. 修了認定を受けるためには、所定の44単位以上の単位数を必要とする。

### <英語コミュニケーションコース修了に必要とされる単位数及びコース修了認定の方法>

1. 所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、英語コミュニケーションコース運営委員会が修了を認定する。
2. 修了認定を受けるためには、所定の48単位以上の単位数を必要とする。

### <スポーツサイエンスコース修了に必要とされる単位数及びコース修了認定の方法>

1. 所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、スポーツサイエンスコース運営委員会が修了を認定する。
2. 修了認定を受けるためには、所定の40単位以上の単位数を必要とする。

### <環境サイエンスコース修了に必要とされる単位数及びコース修了認定の方法>

1. 所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、環境サイエンスコース運営委員会が修了を認定する。
2. 修了認定を受けるためには、所定の48単位以上の単位数を必要とする。

## 教育課程編成・実施の方針

社会学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質・能力が獲得できるよう、多数の教養教育科目及び専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学修環境の向上・学修支援体制を整備する。

### <社会学部 総合社会学科の教育内容>

①：建学の精神の具現化	<ul style="list-style-type: none"><li>• 建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。</li></ul>
②：（③の基礎となる）「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"><li>• 外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語及び英語以外の複数の外国語科目）を開講する。</li><li>• 諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。</li><li>• 広い視野から社会の諸問題を把握し、解決するための基礎的な知識・技能を身につけるために、1～2年次を中心に社会学及び社会福祉学の理論と方法、論文作成及びICTリテラシー活用に関する基礎的な講義・演習系科目を必修科目として開講する。</li></ul>
③：（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"><li>• 外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の言語科目（英語及び英語以外の複数の外国語科目）を開講する。</li><li>• 幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。</li><li>• 社会学的想像力に基づいて社会の態様を探究し、ウェルビーイングの視点から問題を発見・解決するための対話を公共空間で創りだしていく能力を身につけるために2年次に「公共社会学Ⅰ」「公共社会学Ⅱ」を必修科目として開講する。</li><li>• 学生の問題関心の方向性に即しながら、現代社会の諸問題を論理的・構造的に分析し、その解決方向を見いだす知識・能力を身につけるため</li></ul>

	<p>に、2～3年次を中心に、専門教育科目を開講する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 学生が自らの生き方・働き方を構想し、その具体化を進めていくための知識・技能を身につけるために、ライフデザイン科目を開講する。</li> </ul>
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度 （「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 多様な他者に対して共感的態度で関わりながら、協働問題解決スキルを身につけるために、1～2年次を中心にコミュニケーション技法や社会参画技法を修得する講義科目を開講する。</li> <li>• 社会の諸問題に対して当事者意識をもち、持続可能な共生社会の実現に向けて、主体性をもって多様な人々と協働しながら取り組むことができるために、3年次においては演習と実習をパッケージ化した「プロジェクト」を開講する。そして、4年次においてはプロジェクトでの学修経験を踏まえつつ、学習者個人の問題意識に基づいた研究活動を進めるための演習科目及び卒業論文を必修科目として開講する。</li> </ul>

また、専攻科目として、学部共通コース科目を置き、コース所属学生に必要な基本的資質・能力が獲得できるよう、体系的な教育課程を編成・展開する。

### <国際関係コースの教育内容>

①：建学の精神の具現化	
②：（③の基礎となる）「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 幅広い知識と一定のコミュニケーション能力を身につけるために、第4セメスターに必修科目（国際関係論Ⅰ、地域研究入門）と選択必修科目（コース指定外国語）を開講する。</li> </ul>
③：（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 幅広い知識と一定のコミュニケーション能力を活用して、国際社会が直面する諸問題について多角的に思考・判断・考察するために、選択科目B群（経済・経営・法・政策学部からの提供科目）を開講する。</li> </ul>
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度 （「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 異なる価値や文化に関心を抱き、それらを積極的に理解しようとする態度を身につけるために、地域研究科目（主として選択科目A群）を開講する。</li> </ul>

### <英語コミュニケーションコースの教育内容>

①：建学の精神の具現化	
②：（③の基礎となる）「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日常生活に支障のない英語の技能を身につけるために、「Oral CommunicationⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」「WritingⅠ・Ⅱ」を必修科目として、また、「Communicative GrammarⅠ・Ⅱ」等を選択科目として配置する。</li> <li>• 英語圏の言語や文化を、幅広い視野から理解し考えるために、文化的背景を学修できる科目・異文化理解を促す科目を配置する。</li> </ul>
③：（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 柔軟な思考力・表現力を身につけるために、「Process Writing」「Critical Essay」「SeminarⅠ・Ⅱ」等の科目を配置する。それらの科目担当者はネイティブスピーカーを中心に構成する。</li> </ul>
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度 （「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自らもしくはチームで目標を定め、主体的に行動するために、「Public Speaking」「Intercultural Discussion」「Global Understanding in English」「海外研修」「SeminarⅠ・Ⅱ」「卒業研究」を配置する。</li> </ul>

### <スポーツサイエンスコースの教育内容>

①：建学の精神の具現化	
②：（③の基礎となる）「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人文・社会科学系および自然科学系に大別されるスポーツ科学を学ぶ上での基礎となる科目を開講する。</li> <li>• 特定のテーマに基づき学ぶ少数科目を開講する。</li> <li>• スポーツにおける諸事象を客観的に分析・評価するための科目を開講する。</li> </ul>
③：（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>• スポーツ科学の個別領域での課題や、その解決策を探る思考力・判断力を育成する科目を開講する。</li> <li>• 課題の解決や解明に取り組む姿勢や態度、方法論を学ぶために実習を含む科目を開講する。</li> </ul>
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 主体性と協働性を身につけるために、演習、キャリア入門（スポーツサイエンスコース）、スポーツキャリア実習（キャリア形成科目）を開講する</li> </ul>

### <環境サイエンスコースの教育内容>

①：建学の精神の具現化	
②：（③の基礎となる）「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 環境問題の現状および解決方法に関する知識を身につけるため、第四セメスターから、必修科目の「環境学A」および人文・社会科学系と自然科学系科目からなる座学の選択必修科目を開講する。</li> <li>• 環境問題を解決する技能を身につけるため、「シミュレーション技法」および「環境実践研究」などの実習科目を開講する。</li> </ul>
③：（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自然、社会、人文に関する幅広い知識・技能を活用して、持続可能な社会の実現のために環境学の視点から必要な技術や制度について思考・判断・考察するため「環境学B」「環境管理論Ⅰ・Ⅱ」などの科目を開講する。</li> </ul>
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 持続可能な社会の実現のために多様な人々と協働しながら主体的に行動する態度を身につけるため「生態学A・B」「環境フィールドワーク」などの科目を開講する。</li> </ul>

# 社会学部の教育課程

## 【1】卒業要件単位数

### (1) 総合社会学科における卒業要件単位数

科目区分	種別	科目群	単位数	卒業要件単位数
教養教育科目	必修	仏教の思想A、B	各2 (計4)	32
		英語総合1 (A)、1 (B) 英語総合2 (A)、2 (B)	各1 (計4)	
	選択必修 ※1	初修外国語Ⅰ、Ⅱ	各2 (計4)	
		① 英語総合3 (A)、3 (B) 英語総合4 (A)、4 (B) ② 初修外国語ⅢA、ⅢB、ⅢC、ⅢD	各1 (計4) ※①もしくは②を選択	
		人文科学系基幹科目	2以上	
		社会科学系基幹科目	2以上	
		自然科学系基幹科目	2以上	
選択	—	10以上		
専攻科目	必修	基礎教育科目A群 ・基礎ゼミナールA、B ・社会学への招待 ・社会学概論 ・社会福祉学への招待 ・社会イノベーション実践論 ・共感とコミュニケーション ・社会調査入門 ・社会統計学Ⅰ ・ICTリテラシー実習A、B	計20	32
		基礎教育科目B群 ・公共社会学Ⅰ、Ⅱ	各2 (計4)	
		卒業論文科目	8	
	選択必修 ※1	基礎教育科目B群	6以上	34以上
		専門教育科目群	20以上	
		プロジェクト科目群	8以上	
	選択	専門教育科目群	6以上	18以上
ライフデザイン科目群		12以上		
フリーゾーン ※2				8以上
合計				124以上

#### ※1 選択必修科目について

選択必修科目の合計が卒業要件数を超えた場合は、その余剰分の単位数が選択科目に計上されます。

#### ※2 フリーゾーンの取り扱いについて

・各分野の卒業要件単位数からの余剰分については、フリーゾーンに集計されます。ただし、教養教育科目の余剰分については4単位

がフリーゾーンの単位として集計される上限となります。

・成績表ではフリー①、フリー②と記載されます。フリー①には専攻科目の余剰分が、フリー②には、フリー①にて4単位を超えた専攻科目の単位および教養教育科目の余剰分の単位数が表記されます。

## (2) 学部共通コースにおける卒業要件単位数

		国際関係コース		英語コミュニケーションコース		スポーツサイエンスコース		環境サイエンスコース	
		合計	詳細	合計	詳細	合計	詳細	合計	詳細
教養教育科目	必修 「仏教の思想A・B」 (各2単位)、必修 外国語(12 単位)	32	16	32	16	32	16	32	16
	選択必修 教養科目 (3分野か ら各1科目 (2単位) 以上)		6		6		6		6
	選択 教養教育科 目		10		10		10		10
コース科目	必修	44	4	48	20	40	-	48	4
	選択必修		4		-		10		12
	選択		24		28		30		32
	学部提供		12		-		-		-
学部専攻科 目	基礎教育科 目A群	40	20	40	20	44	20	40	20
	必修 基礎教育科 目B群		4		4		4		4
	選択必修 基礎教育科 目B群		6		6		6		6
	選択必修 専門教育科 目群		10		10		14		10
フリーゾ ーン	専攻フリー ゾーン	8	-	4	2	8	4	4	2
	オールフ リーゾ ーン		-		2		4		2
合計		124		124		124		124	

## 【2】カリキュラムマップ



※各領域の履修モデル

◆現代社会領域

(目指す職業・進路) 一般企業、公務員、教員(中・高)、NPO・NGOなど

◎：必修科目

●：選択必修科目

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		修得単位数	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター		
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想A◎ 2	仏教の思想B◎ 2						32	
	言語科目	英語総合1(A)◎ 1	英語総合2(A)◎ 1	英語総合3(A)● 1	英語総合4(A)● 1					
		英語総合1(B)◎ 1	英語総合2(B)◎ 1	英語総合3(B)● 1	英語総合4(B)● 1					
		フランス語I● 2	フランス語II● 2							
	人文科学系科目		宗教の世界B● 2	歴史学入門	2					
社会科学系科目	法学のすすめ● 2		データサイエンス・AI入門	2	人権論B	2				
自然科学系科目	数学への旅● 2			地球科学	2					
スポーツ科学系科目			スポーツと人権・平和	2						
専攻科目	基礎教育科目A群	基礎ゼミナールA◎ 2	基礎ゼミナールB◎ 2						20	
		社会学への招待◎ 2	社会学概論◎ 2							
		社会福祉学への招待◎ 2	社会イノベーション実践論◎ 2							
		共感とコミュニケーション◎ 2	社会統計学I◎ 2							
		社会調査入門◎ 2	ICTリテラシー実習B◎ 1							
	基礎教育科目B群			公共社会学I◎ 2	公共社会学II◎ 2				10	
				量的調査法● 2	質的調査法● 2					
					社会学の歴史と理論● 2					
		専門教育科目群		リスクコミュニケーション論 2	逸脱と犯罪の社会学● 2	階層と格差の社会学● 2	環境社会学● 2	子ども社会学● 2		
				社会問題とメディア 2	教育社会学● 2	地域社会学● 2	ジェンダーと家族の社会学● 2	差別と排除の社会学● 2		
			社会探究実習● 2	文章表現の技術(発展) 2	市民社会の歴史と現在● 2	宗教社会学● 2				
プロジェクト科目群			文章表現の技術(基礎) 2	歴史と記憶の社会学● 2	グローバル化の社会学● 2			8		
					社会共生演習A◎ 2	社会共生演習B◎ 2				
ライフデザイン科目群	キャリアデザイン論 2	ファシリテーション技法 2	哲学概論(通年) 2	哲学概論(通年) 2	社会共生実習A◎ 2	社会共生実習B◎ 2		12		
					労働と暮らしの社会政策 2	プロジェクトマネジメント論 2				
卒業論文科目						卒業論文演習A◎ 2	卒業論文演習B◎ 2	4		
修得単位数	23	23	22	20	14	14	2	6	124	

## ◆文化・メディア領域

(目指す職業・進路) 一般企業、公務員、教員(中・高)、NPO・NGO、放送・通信関係、マスコミ・広告関係など

◎: 必修科目

●: 選択必修科目

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		修得単位数	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター		
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想A◎ 2	仏教の思想B◎ 2						32	
	言語科目	英語総合1(A)◎ 1	英語総合2(A)◎ 1	英語総合3(A)● 1	英語総合4(A)● 1					
		英語総合1(B)◎ 1	英語総合2(B)◎ 1	英語総合3(B)● 1	英語総合4(B)● 1					
		フランス語 I ● 2	フランス語 II ● 2							
	人文科学系科目		宗教の世界B● 2	歴史学入門 2						
社会科学系科目	法学のすすめ● 2		データサイエンス・AI入門 2	人権論B 2						
自然科学系科目			数学への旅● 2	地球科学 2						
スポーツ科学系科目			スポーツと人権・平和 2							
専攻科目	基礎教育科目A群		基礎ゼミナールA◎ 2	基礎ゼミナールB◎ 2					20	
		社会学への招待◎ 2	社会学概論◎ 2							
		社会福祉学への招待◎ 2	社会イノベーション実践論◎ 2							
		共感とコミュニケーション◎ 2	社会統計学 I ◎ 2							
		社会調査入門◎ 2	ICTリテラシー実習B◎ 1							
		ICTリテラシー実習A◎ 1								
	基礎教育科目B群			公共社会学 I ◎ 2	公共社会学 II ◎ 2					10
			量的調査法● 2	質的調査法● 2						
				ICTリテラシー技法● 2						
	専門教育科目群		ポキュラーカルチャー論● 2	メディア論● 2	文化とメディア● 2	ジャーナリズム倫理● 2	コピーライティング論● 2	メディアの技術史● 2		34
	メディア産業論● 2	社会問題とメディア● 2	防災とメディア● 2	ネット映像技法● 2	文化と表象の社会学● 2	ラジオ番組制作● 2				
	リスクコミュニケーション● 2	広告と社会● 2	共生のジャーナリズム● 2	インタビュー技法● 2	広報コミュニケーション論● 2					
プロジェクト科目群					社会共生演習A◎ 2	社会共生演習B◎ 2		8		
					社会共生実習A◎ 2	社会共生実習B◎ 2				
ライフデザイン科目群			キャリアプランニング論 2	労働法 2	労働と暮らしの社会政策 2	プロジェクトマネジメント論 2		12		
			外国史概説(通年) 2	外国史概説(通年) 2						
卒業論文科目							卒業論文演習A◎ 2	卒業論文演習B◎ 2	8	
							卒業論文◎ 4			
修得単位数		23	23	24	22	12	12	2	6	124

## ◆健康・スポーツ社会領域

(目指す職業・進路) 一般企業、公務員、教員(中・高)、保健医療機関、NPO・NGO、スポーツ産業など

◎: 必修科目

●: 選択必修科目

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		修得単位数			
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター				
「仏教の思想」科目	仏教の思想A◎	2	仏教の思想B◎	2								
	英語総合1(A)◎	1	英語総合2(A)◎	1	英語総合3(A)●	1	英語総合4(A)●	1				
	英語総合1(B)◎	1	英語総合2(B)◎	1	英語総合3(B)●	1	英語総合4(B)●	1				
	フランス語Ⅰ●	2	フランス語Ⅱ●	2								
	人文科学系科目		宗教の世界B●	2	歴史学入門	2						
社会科学系科目		法学のすすめ●	2	データサイエンス・AI入門	2	人権論B	2					
自然科学系科目	数学への旅●	2			地球科学	2						
スポーツ科学系科目				スポーツと人権・平和	2							
基礎教育科目A群	基礎ゼミナールA◎	2	基礎ゼミナールB◎	2								
	社会学への招待◎	2	社会学概論◎	2								
	社会福祉学への招待◎	2	社会イノベーション実践論◎	2								
	共感とコミュニケーション◎	2	社会統計学Ⅰ◎	2								
	社会調査入門◎	2	ICTリテラシー実習B◎	1								
	ICTリテラシー実習A◎	1										
基礎教育科目B群			公共社会学Ⅰ◎	2	公共社会学Ⅱ◎	2						
			量的調査法●	2	質的調査法●	2						
専門教育科目群	スポーツとビジネス●	2	スポーツ社会学●	2	健康と病の社会学●	2	アウトドアスポーツ演習A●	2	スポーツとビジネス●	2	スポーツ史●	2
	健康とライフスタイル●	2	スポーツと身体●	2	コーチング論●	2	地域とスポーツ●	2	現代生活と保健衛生●	2	スポーツ組織と運営●	2
					健康心理学●	2	ヒューマンパフォーマンス心理学●	2	クラブ活動演習●	2	スポーツと文化●	2
							レクリエーション運営●	2				
									社会共生演習A◎	2	社会共生演習B◎	2
プロジェクト科目群								社会共生実習A◎	2	社会共生実習B◎	2	
ライフデザイン科目群			キャリアプランニング論	2	労働法	2	労働と暮らしの社会政策	2	プロジェクトマネジメント論	2		
卒業論文科目			哲学概論(通年)	2	哲学概論(通年)	2			卒業論文演習A◎	2	卒業論文演習B◎	2
修得単位数	23	23	24	22	12	12	2	6	124			

## ◆現代福祉領域

(目指す職業・進路) 一般企業、社会福祉施設、保健医療機関、社会福祉協議会、公務員、教員(中・高)、NPO・NGO、社会的企業など

◎：必修科目

●：選択必修科目

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		修得単位数			
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター				
「仏教の思想」科目	仏教の思想A◎	2	仏教の思想B◎	2								
	英語総合1(A)◎	1	英語総合2(A)◎	1	英語総合3(A)●	1	英語総合4(A)●	1				
	英語総合1(B)◎	1	英語総合2(B)◎	1	英語総合3(B)●	1	英語総合4(B)●	1				
	フランス語Ⅰ●	2	フランス語Ⅱ●	2								
	人文科学系科目	倫理学入門●	2	宗教の世界B●	2							
社会科学系科目	法学のすすめ●	2	人権論B	2	データサイエンス・AI入門	2						
自然科学系科目	数学への旅●	2			地球科学	2						
スポーツ科学系科目					現代社会とスポーツ	2						
基礎教育科目A群	基礎ゼミナールA◎	2	基礎ゼミナールB◎	2								
	社会学への招待◎	2	社会学概論◎	2								
	社会福祉学への招待◎	2	社会イノベーション実践論◎	2								
	共感とコミュニケーション◎	2	社会統計学Ⅰ◎	2								
	社会調査入門◎	2	ICTリテラシー実習B◎	1								
	ICTリテラシー実習A◎	1										
基礎教育科目B群			公共社会学Ⅰ◎	2	公共社会学Ⅱ◎	2						
			社会福祉原論●	4	ソーシャルワークの基礎と専門職(共通)●	2						
専門教育科目群			ボランティア・NPO論●	2	高齢者福祉論●	2	社会福祉調査の基礎●	2	刑事司法と福祉●	2	福祉とケアの社会学●	2
			社会問題とメディア	2	障害者福祉論●	2	貧困に対する支援●	2	児童福祉論●	2	ソーシャルワークの理論と方法(共通)●	4
					社会保障論●	4	地域福祉論●	4				
							喪失とグリーフケア●	2				
							国際福祉論●	2				
プロジェクト科目群							社会共生演習A◎	2	社会共生演習B◎	2		
ライフデザイン科目群							社会共生実習A◎	2	社会共生実習B◎	2		
卒業論文科目			哲学概論(通年)	2	哲学概論(通年)	2	労働と暮らしの社会政策	2	プロジェクトマネジメント論	2		
修得単位数	23	23	24	24	10	12	2	6	124			

### 【3】社会学部の設置科目

#### (1) 総合社会学科の専攻科目

##### 基礎教育科目 A 群

◎は必修科目

●は選択必修科目

○は選択科目

授業科目	単位	1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ	領域				資格課程				備考			
										現代社会	文化・メディア	健康・スポーツ	現代福祉	社会福祉士	精神保健福祉士	社会調査士	レクリエーションR		健康教育専門士	教職（中学社会）	教職（公民）
基礎ゼミナールA	2	◎								◎	◎	◎	◎								
基礎ゼミナールB	2		◎							◎	◎	◎	◎								
社会学への招待	2	◎								◎	◎	◎	◎					◆	◆		
社会学概論	2		◎							◎	◎	◎	◎	◆	◆				◆	◆	
社会福祉学への招待	2	◎								◎	◎	◎	◎						◆	◆	
社会イノベーション実践論	2		◎							◎	◎	◎	◎						◆	◆	
共感とコミュニケーション	2	◎								◎	◎	◎	◎						◆	◆	
社会調査入門	2	◎								◎	◎	◎	◎		◆				◆	◆	
社会統計学 I	2		◎							◎	◎	◎	◎		◆					「社会統計学 II」の先修科目	
ICTリテラシー実習A	1	◎								◎	◎	◎	◎						◆	◆	「ICTリテラシー実習B」の先修科目
ICTリテラシー実習B	1		◎							◎	◎	◎	◎						◆	◆	

##### 基礎教育科目 B 群

◎は必修科目

●は選択必修科目

○は選択科目

区分	授業科目	単位	1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ	領域				資格課程				備考			
											現代社会	文化・メディア	健康・スポーツ	現代福祉	社会福祉士	精神保健福祉士	社会調査士	レクリエーションR		健康教育専門士	教職（中学社会）	教職（公民）
理論	公共社会学 I	2			◎						◎	◎	◎	◎						◆	◆	
	公共社会学 II	2			◎						◎	◎	◎	◎								
	社会学の歴史と理論	2				●					●	●	●	●								
	社会福祉原論	4			●						●	●	●	●	◆	◆					「ソーシャルワーク実習 I」 ・「精神保健福祉援助実習」の先修科目	
	文化人類学	2				●					●	●	●	●								
	多様性の社会学	2			●						●	●	●	●								
方法	グローバルヒストリー	2			●					●	●	●	●									
	質的調査法	2				●				●	●	●	●		◆			◆				
	量的調査法	2			●					●	●	●	●		◆			◆				
	ソーシャルワークの基盤と専門職	2			●					●	●	●	●	◆	◆					◆	◆	「ソーシャルワーク実習 I」 ・「精神保健福祉援助実習」の先修科目
	社会参画技法	2				●				●	●	●	●									
ICTリテラシー技法	2				●					●	●	●	●									

##### 専門教育科目群

◎は必修科目

●は選択必修科目

○は選択科目

授業科目	単位	領域								資格課程					備考			
		1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ	現代 社会	文化・ メディア	健康・ スポーツ	現代 福祉	精神 保健 福祉 士		社会 調査 士	レク リエ ーシ ョ ン ー R	健康 教育 専門 士
逸脱と犯罪の社会学	2			○					●	●	●	●						
ジェンダーと家族の社会学	2			○					●	●	●	●					◆	◆
教育社会学	2			○					●	●	●	●					◆	◆
階層と格差の社会学	2				○				●	●	○	●						
地域発展論	2			○					●	●	●	●						
政治経済学	2				○				●	○	○	○						
市民社会の歴史と現在	2			○					●	●	○	○						
環境社会学	2			○					●	●	○	○					◆	◆
歴史と記憶の社会学	2			○					●	●	○	○						
差別と排除の社会学	2				○				●	●	●	●						
宗教社会学	2				○				●	●	●	●					◆	◆
宗教学概論	4				○				●	●	●	●					◆	◆
人文地理学	4				○				●	●	●	●						◆
社会探究実習	2				○				●									
観光社会学	2				○				●	●	○	○						
グローバル化の社会学	2				○				●	●	○	○						
集団とネットワークの社会学	2				○				●	○	●	○						
地域社会学	2				○				●	○	○	●					◆	◆
子ども社会学	2				○				●	○	○	○						
都市社会学	2				○				●	○	○	○						
情報社会論	2				○				●	●	○	○						
アートと社会	2				○				●	●	○	○						
音楽社会学	2				○				●	●	○	○						
文化と表象の社会学	2				○				○	●	○	○					◆	◆
国際文化論	2				○				●	●	○	○						
カルチュラルスタディーズ	2				○				●	●	○	○						
ポピュラーカルチャー論	2	○							○	●	○	○						
文化とメディア	2				○				○	●	○	○						
メディア論	2				○				○	●	○	○						
メディア産業論	2	○							○	●	○	○						
社会問題とメディア	2				○				○	●	○	○						
リスクコミュニケーション論	2				○				○	●	○	○						
メディアの社会学	2				○				●	●	●	●						
ジャーナリズム論	2				○				●	●	○	○						
ジャーナリズム倫理	2				○				○	●	○	○						
共生のジャーナリズム	2				○				○	●	○	○						
人権とメディア	2				○				○	●	○	○						
デジタルメディア論	2				○				○	●	○	○						
ネット映像技法	2				○				○	●								
アジアのメディア	2				○				○	●	○	○						
防災とメディア	2				○				○	●	○	○						
調査報道論	2					○			○	●	○	○						
メディア史	2				○				○	●	○	○						
メディアの技術史	2				○				○	●	○	○						
コピーライティング論	2					○			○	●								
ドキュメンタリー理論	2				○				○	●	○	○						
ドキュメンタリー実践Ⅰ	2					○			○	●								「ドキュメンタリー実践Ⅱ」の先修科目
ドキュメンタリー実践Ⅱ	2					○			○	●								
映画論	2				○				○	●	○	○						
メディアコンテンツ技法Ⅰ	2				○				○	●								「メディアコンテンツ技法Ⅱ」の先修科目
メディアコンテンツ技法Ⅱ	4				○				○	●								
文章表現の技術（基礎）	2	○							○	○	○	○						「文章表現の技術（発展）」の先修科目
文章表現の技術（発展）	2		○						○	○	○	○						
メディア・リテラシー	2				○				○	●	○	○						
ジャーナリズムの作文技術	2				○				○	●								
インタビュー技法	2					○			○	●								
広報コミュニケーション論	2				○				○	●								
広告と社会	2				○				○	●								
ラジオ番組制作	2				○				○	●								
映像制作演習	2				○				○	●								
健康とライフスタイル	2	○							○	○	●	●					◆	
健康と病の社会学	2				○				○	○	●	●						

授業科目	単位	領域								資格課程					備考			
		1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ	現代社会	文化・メディア	健康・スポーツ	現代福祉	精神保健福祉士		社会福祉士	レクリエーションR	健康教育専門士
現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2			○					○	○	●	●	◆					
現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2				○				○	○	●	●	◆					
精神医学と精神医療	4			○					○	○	●	●	◆					
精神保健福祉制度論	2				○				○	○	●	●	◆					
精神保健福祉の原理	4				○				○	○	●	●	◆					
精神障害リハビリテーション論	2					○			○	○	●	●	◆					
現代生活と保健衛生	2			○							●						◆	
レクリエーション実技	1			○					○	○	●	○				◆	◆	
アウトドアスポーツ演習A	2				○						●					◆		
アウトドアスポーツ演習B	2				○						●					◆		
クラブ活動演習	2			○							●							
レクリエーション運営	2				○				○	○	●	○				◆		
地域とスポーツ	2				○				○	○	●	○						
レクリエーション演習	2					○			○	○	●	○				◆		
スポーツ社会学	2		○						●	○	○	○						
スポーツとビジネス	2	○							○	○	●	○						
スポーツと身体	2		○						○	○	●	○						
障害者スポーツ論	2		○						○	○	●	○						
健康心理学	2	○							○	○	●	○						
ヒューマンパフォーマンス心理学	2				○				○	○	●	○						
スポーツ史	2				○				○	○	●	○						
スポーツと文化	2						○		○	○	●	○						
スポーツ組織と運営	2				○				○	○	●	○						
コーチング論	2			○					○	○	●	○						
スポーツメディア論	2					○					●	●						
スポーツ政策論	2					○					●							
刑事司法と福祉	2			○					●	○	●	●	◆	◆				
高齢者福祉論	2			○					○	○	●	●	◆					
障害者福祉論	2			○					○	○	●	●	◆	◆				
社会福祉調査の基礎	2				○				●	○	●	●	◆	◆				
多文化共生論	2		○						●	○	○	○						
貧困に対する支援	2				○				●	●	○	○	◆					
社会的企業論	2				○				●	●	○	●						
社会保障論	4			○					●	○	●	●	◆	◆				
医学概論	2				○				○	○	●	●	◆	◆				
心理学と心理的支援	2				○				○	○	●	●	◆	◆				
保健医療と福祉	2					○			○	○	●	●	◆	◆				
地域福祉論	4				○				●	○	●	●	◆	◆				
国際福祉論	2				○				○	○	○	●						
福祉とケアの社会学	2				○				●	○	○	●						
障害学	2					○			●	○	●	●						
ボランティア・NPO論	2		○						●	●	●	●						
児童福祉論	2			○					○	○	○	●	◆	◆				
ソーシャルワークの理論と方法	4				○				○	○	○	●	◆	◆				
喪失とグリーフケア	2				○				○	○	○	●						
権利擁護を支える法制度	2					○			○	○	●	●	◆	◆				
インクルーシブ教育（生涯学習支援基礎A）	2			○							●							
インクルーシブ教育（生涯学習支援基礎B）	2				○						●							
インクルーシブ教育（ダンス・ムーブメント療法A）	2			○							●							
インクルーシブ教育（ダンス・ムーブメント療法B）	2				○						●							
インクルーシブ教育（音楽療法A）	2			○							●							
インクルーシブ教育（音楽療法B）	2				○						●							
海外フィールドワーク	2		○						○	○	○	○						

## プロジェクト科目群

○は必修科目

●は選択必修科目

○は選択科目

区分	授業科目	単位	領域								資格課程					備考						
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ	現代社会	文化・メディア	健康・スポーツ	現代福祉	社会福祉士		精神保健福祉士	社会調査士	レクリエーション	健康教育専門士	教職（公民）	教職（中学社会）
演習	社会共生演習A	2					●				●	●	●	●								
	社会共生演習B	2						●			●	●	●	●								
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2				●					●	●	●	●	◆	◆						「ソーシャルワーク実習Ⅰ」 ・「精神保健福祉援助実習」の先修科目
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2					●				●	●	●	●	◆							
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2						●			●	●	●	●	◆							
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	4					●				●	●	●	●	◆							
実習	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	2					●				●	●	●	●	◆							
	社会共生実習A	2					●				●	●	●	●		◆						「社会調査士」資格対象クラスを受講
	社会共生実習B	2						●			●	●	●	●		◆						「社会調査士」資格対象クラスを受講
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	6						●			●	●	●	●	◆							先修科目として社会福祉士指定科目20単位を受講
精神保健福祉援助実習	6						●			●	●	●	●	◆								先修科目として精神保健福祉士指定科目20単位を受講

## ライフデザイン科目群

◎は必修科目

●は選択必修科目

○は選択科目





# 専攻科目の教育目的および履修方法

## 【1】専攻科目とは

専攻科目は専門領域に関する科目で、学部が定めた「学位授与の方針」（ディプロマポリシー）と「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラムポリシー）に沿って、学生が専門的な知識や経験を得、本学部卒業生にふさわしい資質を身につけることを目的に配置されています。

- (1) 基礎教育科目A群
- (2) 基礎教育科目B群
- (3) 専門教育科目群
- (4) プロジェクト科目群
- (5) ライフデザイン科目群
- (6) 卒業論文科目

## 【2】専攻科目の履修方法

### (1) 「必修科目」「選択必修科目」について

「必修科目」として指定されている、「基礎教育科目A群」20単位、「基礎教育科目B群」4単位、卒業論文科目8単位を必ず履修しなければなりません。

また、「選択必修科目」として指定されている科目から、「基礎教育科目B群」6単位以上、「専攻教育科目群」20単位以上、「プロジェクト科目群」8単位以上を必ず履修しなければなりません。

上記66単位以外に、「専攻教育科目群」から6単位、「ライフデザイン科目群」から12単位、合計18単位以上を履修しなければなりません。

### (2) 先修制について

下表のとおり先修制をとっています。先修条件を満たしていない場合、履修することができません。

※下表B群に示す科目を履修登録するためには、A群の科目の単位修得が条件となります。

A群	B群
ICTリテラシー実習A	ICTリテラシー実習B
社会統計学Ⅰ	社会統計学Ⅱ
ドキュメンタリー実践Ⅰ	ドキュメンタリー実践Ⅱ
メディアコンテンツ技法Ⅰ	メディアコンテンツ技法Ⅱ
文章表現の技術（基礎）	文章表現の技術（発展）
社会福祉原論	ソーシャルワーク実習Ⅰ
ソーシャルワークの基盤と専門職	
ソーシャルワーク演習Ⅰ	
※上記を含み社会福祉士指定科目20単位以上	
社会福祉原論	精神保健福祉援助実習
ソーシャルワークの基盤と専門職	
ソーシャルワーク演習Ⅰ	

※上記を含み精神保健福祉士指定科目20単位以上	
社会福祉士指定科目のうち50単位以上	ソーシャルワーク実習Ⅱ

## 【3】「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」

社会学部はキャリア教育を重視しています。その一環として、以下の科目を設けています。

### 1. キャリア啓発科目

学生自身による「進路動機づけ」を後押しする科目です。早い段階から自身の将来をイメージし、主体的にキャリア形成できるようになることを狙いとしています。社会で特に必要とされる論理的な思考力やコミュニケーション能力などの向上を目指します。

**科目名：「キャリアデザイン論」**

何のために大学に入り大学で何をしたいのか、社会でどのように貢献・活躍したいのか——など、将来のイメージに関わることから自分の言葉で語れるようになることを目指します。キャリア形成をしていく上で重要となる「考え方」と「知識」を身につけます。

### 2. キャリア形成科目

「働くとはどういうことか」、「職業とは何か」といった問題について、社会・政治経済・雇用環境などさまざまな観点から捉え、実社会への理解を深めることによって、学生の主体的な進路選択を支援する科目です。

**科目名：「キャリアプランニング論」**

比較的高年次生を対象に、職業を通じた人生のあり方を考えるきっかけをつかむことを目的にしています。職業選択に関する具体的な方法論や将来のキャリアアップ（職業を通じた人生の質の向上）に向けた心構えなども学修します。

**科目名：「プロジェクトマネジメント」**

社会で生きていく上において「目標」がいかに大きな役割を果たすかを学び、目標達成のために物事にどのように向き合っていくべきかを、実際のプロジェクトマネジメント（プロジェクト運営）をとおして理解することを目的にしています。

## 【4】卒業論文

### 1. スケジュール

ポータルサイト等でお知らせします。提出を遅延すると単位が認められないので注意してください。

### 2. 書式

#### (1) 作成

文書作成ソフト（Word）使用を原則とします。

#### (2) 分量

① 卒業論文の分量は、ページ数ではなく、文字数で制限します。本論20,000字を上限とします。

② 制限文字数は、次のとおりです。

表紙 目次	制限文字数に含まれません。
本論	14,000字以上
注釈 参考文献	制限文字数に含まれません。

③ 制限文字数を超える場合は、指導教員と相談してください。

#### (3) 書式設定

- ① 用紙サイズ：A4
- ② 1ページ文字数と行数

次の表を参考に、読みやすい適切な文字サイズ、文字×行数に設定すること。

文字サイズ	10.5ポイント
1行文字数×1ページ行数	40字×30行

- ③ 余白  
上下左右30mm
- ④ ページの番号  
ページの下・中央（本論から付してください）  
※パソコンの機種やソフトの制約等で問題が生じるときには、指導教員に相談してください。

#### (4) 表記法

数字・カッコ記号、注のつけ方等の表記法については、指導教員の指示に従ってください。

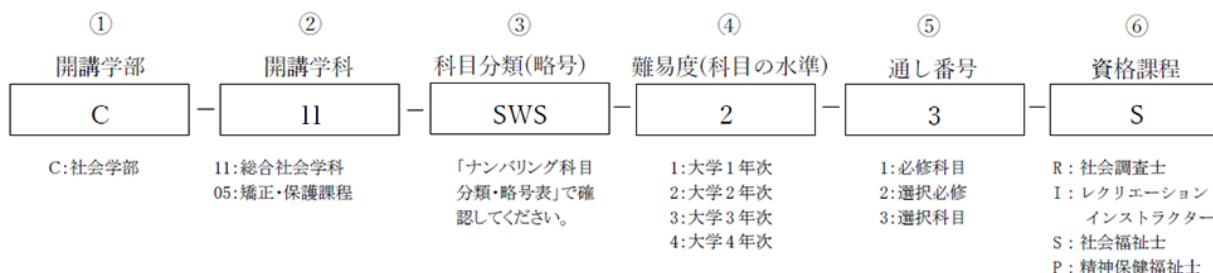
### 3. 提出

manabaでの提出となります。提出に関する事項については、別途ポータルサイト等でお知らせします。

## 【5】科目ナンバリング

### 社会学部開講科目ナンバリング

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。社会学部開講科目のナンバリングコードは次のとおりです



例：「児童福祉論」の科目ナンバリングである「C-11-SWS-2-3-S」の場合、①社会学部、②総合社会学科開講、③社会福祉学科目分類、④大学2年次の難易度、⑤選択科目、⑥社会福祉士課程科目であることを示す。

### ナンバリング科目分類・略語表

参考：科学研究費助成事業「系・分野・分科・細目表 付表キーワード一覧」(日本学術振興会)

系	分野	分科	略号	細目名/Research Field		
-	-	-	SEM	ゼミナール	Seminar	
総合系	複合領域	科学教育・教育工学	EDT	教育工学	Educational technology	
		地理学	GGR	地理学	Geography	
		健康・スポーツ科学	SPS	スポーツ科学	Sports science	
			AHS	応用健康科学	Applied health science	
人文社会系	人文学	哲学	PHE	哲学・倫理学	Philosophy/Ethics	
			CIB	中国哲学・印度哲学・仏教学	Chinese philosophy/Indian philosophy/Buddhist studies	
			RES	宗教学	Religious studies	
		史学	HSG	史学一般	Historical studies in general	
			JPH	日本史	Japanese history	
			HUG	人文地理学	Human geography	
	CUA		文化人類学・民俗学	Cultural anthropology		
	社会科学	法学	FUL	基礎法学	Fundamental law	
			CRL	刑事法学	Criminal law	
			CIL	民事法学	Civil law	
			POL	政治学	Politics	
		政治学	ECT	理論経済学	Economic theory	
		社会学	SOC	社会学	Sociology	
			SWS	社会福祉学	Social welfare and social work studies	
			心理学	SOP	社会心理学	Social psychology
		CLI		臨床心理学	Clinical psychology	
		教育学	EDU	教育学	Education	
			SOE	教育社会学	Sociology of education	
			SNE	特別支援教育	Special needs education	
			生物系	医歯薬学	社会医学	HPH
内科系臨床医学		GIM	内科学一般(含心身医学)		General internal medicine (including psychosomatic medicine)	

なお、「ゼミナール」については、龍谷大学社会学部教務課として科目分類(略号)を設定する。

## 【総合社会学科】科目ナンバリング

科目名	科目ナンバリング
基礎ゼミナールA	C-11-SEM-1-1
基礎ゼミナールB	C-11-SEM-1-1
社会学への招待	C-11-SOC-1-1
社会学概論	C-11-SOC-1-1-SP
社会福祉学への招待	C-11-SWS-1-1
社会イノベーション実践論	C-11-SOC-1-1
共感とコミュニケーション	C-11-SWS-1-1
社会調査入門	C-11-SOC-1-1-R
社会統計学Ⅰ	C-11-SOC-1-1-R
ICTリテラシー実習A	C-11-EDT-1-1
ICTリテラシー実習B	C-11-EDT-1-1
公共社会学Ⅰ	C-11-SOC-2-1
公共社会学Ⅱ	C-11-SOC-2-1
社会学の歴史と理論	C-11-SOC-2-2
社会福祉原論	C-11-SWS-2-2

文化人類学	C-11-CUA-2-2
多様性の社会学	C-11-SOC-2-2
グローバルヒストリー	C-11-HSG-2-2
質的調査法	C-11-SOC-2-2-R
量的調査法	C-11-SOC-2-2-R
ソーシャルワークの基盤と専門職	C-11-SWS-2-2-SP
社会参画技法	C-11-SOC-2-3
ICTリテラシー技法	C-11-EDT-2-2
逸脱と犯罪の社会学	C-11-SOC-2-3
ジェンダーと家族の社会学	C-11-SOC-2-3
教育社会学	C-11-SOC-2-3
階層と格差の社会学	C-11-SOC-2-3
地域発展論	C-11-SOC-2-3
政治経済学	C-11-ECT-2-3
市民社会の歴史と現在	C-11-SOC-2-3
環境社会学	C-11-SOC-2-3
歴史と記憶の社会学	C-11-SOC-2-3
差別と排除の社会学	C-11-SOC-2-3
宗教社会学	C-11-SOC-2-3
宗教学概論	C-11-RES-2-3
人文地理学	C-11-HUG-2-3
社会探究実習	C-11-SOC-2-3
観光社会学	C-11-SOC-2-3
グローバリゼーションの社会学	C-11-SOC-2-3
集団とネットワークの社会学	C-11-SOC-2-3
地域社会学	C-11-SOC-2-3
子ども社会学	C-11-SOC-2-3
都市社会学	C-11-SOC-2-3
情報社会論	C-11-SOC-2-3
アートと社会	C-11-SOC-2-3
音楽社会学	C-11-SOC-2-3
文化と表象の社会学	C-11-SOC-2-3
国際文化論	C-11-SOC-2-3
カルチュラルスタディーズ	C-11-SOC-2-3
ポピュラーカルチャー論	C-11-SOC-1-3
文化とメディア	C-11-SOC-2-3

メディア論	C-11-SOC-1-3
メディア産業論	C-11-SOC-1-3
社会問題とメディア	C-11-SOC-1-3
リスクコミュニケーション論	C-11-SOC-1-3
メディアの社会学	C-11-SOC-2-3
ジャーナリズム論	C-11-SOC-2-3
ジャーナリズム倫理	C-11-PHE-2-3
共生のジャーナリズム	C-11-SOC-2-3
人権とメディア	C-11-SOC-2-3
デジタルメディア論	C-11-SOC-2-3
ネット映像技法	C-11-SOC-2-3
アジアのメディア	C-11-SOC-2-3
防災とメディア	C-11-SOC-2-3
調査報道論	C-11-SOC-2-3
メディア史	C-11-SOC-2-3
メディアの技術史	C-11-SOC-2-3
コピーライティング論	C-11-SOC-3-3
ドキュメンタリー理論	C-11-SOC-2-3
ドキュメンタリー実践Ⅰ	C-11-SOC-2-3
ドキュメンタリー実践Ⅱ	C-11-SOC-3-3
映画論	C-11-SOC-2-3
メディアコンテンツ技法Ⅰ	C-11-SOC-2-3
メディアコンテンツ技法Ⅱ	C-11-SOC-3-3
文章表現の技術（基礎）	C-11-SOC-1-3
文章表現の技術（発展）	C-11-SOC-1-3
メディア・リテラシー	C-11-SOC-2-3
ジャーナリズムの作文技術	C-11-SOC-2-3
インタビュー技法	C-11-SOC-3-3
広報コミュニケーション論	C-11-SOC-2-3
広告と社会	C-11-SOC-2-3
ラジオ番組制作	C-11-SOC-2-3
映像制作演習	C-11-SOC-2-3
健康とライフスタイル	C-11-AHS-1-3
健康と病の社会学	C-11-SOC-2-3
現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	C-11-SWS-2-3-P
現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	C-11-SWS-2-3-P

精神医学と精神医療	C-11-SWS-2-3-P
精神保健福祉制度論	C-11-SWS-2-3-P
精神保健福祉の原理	C-11-SWS-2-3-P
精神障害リハビリテーション論	C-11-SWS-3-3-P
現代生活と保健衛生	C-11-HPH-2-3
レクリエーション実技	C-11-AHS-2-3
アウトドアスポーツ演習A	C-11-SPS-2-3
アウトドアスポーツ演習B	C-11-SPS-2-3
クラブ活動演習	C-11-AHS-2-3
レクリエーション運営	C-11-AHS-2-3
地域とスポーツ	C-11-SPS-2-3
レクリエーション演習	C-11-AHS-3-3
スポーツ社会学	C-11-SPS-1-3
スポーツとビジネス	C-11-SPS-1-3
スポーツと身体	C-11-SPS-1-3
障害者スポーツ論	C-11-SPS-1-3
健康心理学	C-11-AHS-2-3
ヒューマンパフォーマンス心理学	C-11-AHS-2-3
スポーツ史	C-11-SPS-2-3
スポーツと文化	C-11-SPS-3-3
スポーツ組織と運営	C-11-SPS-2-3
コーチング論	C-11-SPS-2-3
スポーツメディア論	C-11-SPS-3-3
スポーツ政策論	C-11-SPS-3-3
刑事司法と福祉	C-11-SWS-2-3-SP
高齢者福祉論	C-11-SWS-2-3-S
障害者福祉論	C-11-SWS-2-3-SP
社会福祉調査の基礎	C-11-SWS-2-3-SP
多文化共生論	C-11-SWS-1-3
貧困に対する支援	C-11-SWS-2-3-S
社会的企業論	C-11-SWS-2-3
社会保障論	C-11-SWS-2-3-SP
医学概論	C-11-GIM-2-3-SP
心理学と心理的支援	C-11-CLI-2-3-SP
保健医療と福祉	C-11-SWS-3-3-S
地域福祉論	C-11-SWS-2-3-SP

国際福祉論	C-11-SWS-2-3
福祉とケアの社会学	C-11-SWS-2-3
障害学	C-11-SWS-3-3
ボランティア・NPO論	C-11-SWS-1-3
児童福祉論	C-11-SWS-2-3-S
ソーシャルワークの理論と方法（共通）	C-11-SWS-2-4-SP
喪失とグリーフケア	C-11-SWS-2-3
権利擁護を支える法制度	C-11-SWS-3-3-SP
インクルーシブ教育（生涯学習支援基礎A）	C-11-SWS-2-3
インクルーシブ教育（生涯学習支援基礎B）	C-11-SWS-2-3
インクルーシブ教育（ダンス・ムーブメント療法A）	C-11-SWS-2-3
インクルーシブ教育（ダンス・ムーブメント療法B）	C-11-SWS-2-3
インクルーシブ教育（音楽療法A）	C-11-SWS-2-3
インクルーシブ教育（音楽療法B）	C-11-SWS-2-3
社会共生演習A	C-11-SWS-3-2
社会共生演習B	C-11-SWS-3-2
ソーシャルワーク演習Ⅰ	C-11-SWS-2-2-SP
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	C-11-SWS-3-2-S
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	C-11-SWS-3-2-S
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	C-11-SWS-3-2-P
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	C-11-SWS-3-2-P
社会共生実習A	C-11-SOC-3-2-R
社会共生実習B	C-11-SOC-3-2-R
ソーシャルワーク実習Ⅰ	C-11-SWS-3-2-S
精神保健福祉援助実習	C-11-SWS-3-2-P
社会統計学Ⅱ	C-11-SOC-2-3-R
多変量解析	C-11-SOC-2-3-R
ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	C-11-SWS-2-3-S
ソーシャルワークの理論と方法（専門）	C-11-SWS-3-3-S
ソーシャルワーク演習Ⅱ	C-11-SWS-3-3-S
ソーシャルワーク演習Ⅲ	C-11-SWS-4-3-S
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	C-11-SWS-4-3-S
ソーシャルワーク実習Ⅱ	C-11-SWS-4-3-S
福祉サービスの組織と経営	C-11-SWS-3-3-S
精神保健福祉援助技術論	C-11-SWS-3-3-P
精神保健援助演習Ⅰ	C-11-SWS-3-3-P

精神保健援助演習Ⅱ	C-11-SWS-3-3-P
日本史概説	C-11-JPH-2-3
外国史概説	C-11-HSG-2-3
自然地理学	C-11-GGR-2-3
地理学（地誌）	C-11-HSG-2-3
経済原論	C-11-ECT-2-3
哲学概論	C-11-PHE-2-3
法学概論	C-11-FUL-2-3
政治学概論	C-11-POL-2-3
キャリアデザイン論	C-11-SOC-1-3
キャリアプランニング論	C-11-SOC-2-3
プロジェクトマネジメント論	C-11-SOC-2-3
労働と暮らしの社会政策	C-11-SOC-3-3
労働法	C-11-FUL-2-3
プレゼンテーション技法	C-11-SOC-1-3
ファシリテーション技法	C-11-SOC-1-3
キャリア実習	C-11-SOC-1-3
社会起業演習A	C-11-SOC-3-3
社会起業演習B	C-11-SOC-3-3
矯正・保護入門	C-05-CRL-1-3
矯正概論A	C-05-CRL-2-3
矯正概論B	C-05-CRL-2-3
矯正教育学A	C-05-CRL-2-3
矯正教育学B	C-05-CRL-2-3
矯正社会学A	C-05-CRL-3-3
矯正社会学B	C-05-CRL-3-3
犯罪心理学A	C-05-CRL-3-3
犯罪心理学B	C-05-CRL-3-3
成人矯正処遇	C-05-CRL-3-3
更生保護概論A	C-05-CRL-2-3
更生保護概論B	C-05-CRL-3-3
保護観察処遇	C-05-CRL-3-3
青少年問題	C-05-CRL-3-3
犯罪学	C-05-CRL-2-3
卒業論文演習A	C-11-SEM-4-1
卒業論文演習B	C-11-SEM-4-1



## 諸課程

### 【1】社会調査士資格

総合社会学科では、社会調査の立案・計画・実施・分析・結果報告にまで至る総合的な力を習得し、官庁や企業において社会調査活動を担うことができ、その調査結果をふまえて政策や戦略を打ち出す能力を有する人材の養成に取り組んでいます。

そこで本学科では、一般社団法人社会調査協会「社会調査士」資格取得の課程を設置しています。以下の科目を履修し単位を修得した学生は資格認定申請を行うことができます。（「一般社団法人社会調査協会」サイトを参照してください）

手続きの詳細等については、その都度掲示板等にて連絡します。なお、2年次・3年次に「社会調査士（キャンディデイト）」の認定を受け、卒業時に「社会調査士」の資格を取得する場合の認定手数料は、合計で22,000円となります。「社会調査士（キャンディデイト）」を取得せず、卒業時に「社会調査士」の認定申請を行う場合は16,500円が必要となります。

※2025年度入学生以降は、「社会調査士」資格取得に関する実習科目の受講にあたり、必要となる交通費等の一部について、大学から経費の補助をおこないます。

詳細は、実習に関する説明会やポータルサイト等を通じてお知らせします（※2026年3月現在）。

	授業科目名	セメスター	履修条件 (協会の規定)	履修条件 (本学部の規定)
A	社会調査入門	1	必修	必修
B	量的調査法	3	必修	必修
C	社会統計学Ⅰ	2	必修	必修
D	社会統計学Ⅱ	3	必修	必修
E	多変量解析	4	Fとの選択必修	推奨
F	質的調査法	4	Eとの選択必修	必修
G	社会共生実習A	5	必修	必修
	社会共生実習B	6	必修	必修

(注意)

- 一般社団法人社会調査協会「社会調査士」資格認定は、「E・Fのうち、いずれか1科目必修」となっていますが、本学部では「質的調査法」は必修であり、「多変量解析」についても受講を推奨します。
- 「社会共生実習A」「社会共生実習B」については、「社会調査実習」のクラスを選択してください。

### 【2】社会福祉士国家試験受験資格

総合社会学科では、社会福祉士の国家試験を受験できる資格を取得することができます。

#### 1) 社会福祉士の職務

社会福祉士は、社会福祉士の名称を用いて、専門的知識および技術をもって、身体上、精神上の障害や環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供するとともに、医師や保健医療サービス提供者、その他関係者との連絡および調整その他援助を行うことを職務とします。

#### 2) 社会福祉士資格の取得

社会福祉士になるためには、以下が必要となります。

- 厚生労働省令に定める社会福祉に関する科目（以下「社会福祉士指定科目」）の単位を修めて卒業すること【国家試験受験資格】
- 社会福祉士国家試験に合格し、指定登録機関において社会福祉士登録簿に登録を受けること

3) 指定科目

【表1】のとおり社会福祉士指定科目に対応しています。

なお、ソーシャルワーク実習Ⅰ等の科目に先修制を設けているので、計画的な履修を進めてください

【表1】社会福祉士指定科目と総合社会学科開講科目の対照表

指定科目等の名称	総合社会学科開講科目の名称	セメ	単位数	履修条件
医学概論	医学概論	4	2	必修
心理学と心理的支援	心理学と心理的支援	4	2	
社会学と社会システム	社会学概論	2	2	
社会福祉の原理と政策	社会福祉原論	3	4	
社会福祉調査の基礎	社会福祉調査の基礎	4	2	
ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワークの基盤と専門職	3	2	
ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	4	2	
ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの理論と方法	4	4	
ソーシャルワークの理論と方法（専門）	ソーシャルワークの理論と方法（専門）	5	4	
地域福祉と包括的支援体制	地域福祉論	4	4	
福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織と経営	5	2	
社会保障	社会保障論	3	4	
高齢者福祉	高齢者福祉論	3	2	
障害者福祉	障害者福祉論	3	2	
児童・家庭福祉	児童福祉論	3	2	
貧困に対する支援	貧困に対する支援	4	2	
保健医療と福祉	保健医療と福祉	5	2	
権利擁護を支える法制度	権利擁護を支える法制度	5	2	
刑事司法と福祉	刑事司法と福祉	3	2	
ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習Ⅰ	4	2	
ソーシャルワーク演習（専門）	ソーシャルワーク演習Ⅱ	5	4	
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	7	4	
ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	5	2	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	6	2	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	7	2	
ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習Ⅰ	6	6	
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	7	2	

【表2】社会福祉士国家試験受験資格に関する実習演習科目の時間数と履修方法

本表は、学則別表15に基づき、社会福祉士国家試験受験資格に関する実習演習科目の時間数と履修方法について定める。

科目名	時間数	履修方法
ソーシャルワーク演習Ⅰ	30時間	演習

ソーシャルワーク演習Ⅱ	60時間	演習
ソーシャルワーク演習Ⅲ	60時間	演習
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	30時間	演習
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	30時間	演習
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	30時間	演習
ソーシャルワーク実習Ⅰ	180時間	実習
ソーシャルワーク実習Ⅱ	60時間	実習

### 【3】精神保健福祉士国家試験受験資格

総合社会学科では、精神保健福祉士の国家試験を受験する資格を取得することができます。

#### 1) 精神保健福祉士の職務

精神保健福祉士は、精神保健福祉士の名称を用いて、精神障害者の保健および福祉に関する専門的知識および知識をもって、精神科病院その他の医療施設において精神障害の医療を受け、または精神障害者の社会復帰の促進を図るための施設を利用する者の地域相談支援の利用に関する相談に応じ、助言、指導、日常生活への適応のために必要な訓練その他の援助を行うことを職務とします。

#### 2) 精神保健福祉士資格の取得

精神保健福祉士になるためには、以下が必要となります。

- (1) 現代福祉学科において、厚生労働省令に定める精神障害者の保険及び福祉に関する科目（以下「精神保健福祉士指定科目」）の単位を修めて卒業すること【国家試験受験資格】
- (2) 精神保健福祉士国家試験に合格し、指定登録機関において精神保健福祉士登録簿に登録を受けること

#### 3) 指定科目

総合社会学科開講科目は【表3】のとおり精神保健福祉士指定科目に対応します。

【表3】精神保健福祉士指定科目と総合社会学科開講科目の対照表

指定科目等の名称	総合社会学科開講科目の名称	セメ	単位数	履修条件
医学概論	医学概論	4	2	必修
心理学と心理的支援	心理学と心理的支援	4	2	
社会学と社会システム	社会学概論	2	2	
社会福祉の原理と政策	社会福祉原論	3	4	
地域福祉と包括的支援体制	地域福祉論	4	4	
社会保障	社会保障論	3	4	
障害者福祉	障害者福祉論	3	2	
権利擁護を支える法制度	権利擁護を支える法制度	5	2	
刑事司法と福祉	刑事司法と福祉	3	2	
社会福祉調査の基礎	社会福祉調査の基礎	4	2	
精神医学と精神医療	精神医学と精神医療	3	4	
現代の精神保健の課題と支援	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	3	2	
	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	4	2	
ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワークの基盤と専門職	3	2	

精神保健福祉の原理	精神保健福祉の原理	4	4
ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの理論と方法	4	4
ソーシャルワークの理論と方法（専門）	精神保健福祉援助技術論	5	4
精神障害リハビリテーション論	精神障害リハビリテーション論	5	4
精神保健福祉制度論	精神保健福祉制度論	4	2
ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習Ⅰ	4	2
ソーシャルワーク演習（専門）	精神保健福祉援助演習Ⅰ	5	2
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	6	4
ソーシャルワーク実習指導	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	5	4
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	6	2
ソーシャルワーク実習	精神保健福祉援助実習	6	6

【表4】精神保健福祉士国家資格受験資格に関する実習演習科目の時間数と履修方法

本表は、学則別表16に基づき、精神保健福祉士国家試験受験資格に関する実習演習科目の時間数と履修方法について定める。

科目名	時間数	履修方法
ソーシャルワーク演習Ⅰ	30	演習
精神保健福祉援助演習Ⅰ	30	演習
精神保健福祉援助演習Ⅱ	60	演習
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	60	演習
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	30	演習
精神保健福祉援助実習	210	実習

## 【4】社会福祉主事任用資格

社会福祉主事任用資格は、都道府県、市町村の行政職や福祉職等の公務員試験に合格して、福祉事務所、児童相談所等のケースワーカーなどに採用される場合に有効な資格です。

また、社会福祉主事は、児童相談所や身体障害者更生相談所など専門行政機関における相談援助職の基礎資格とされています。

### （1）社会福祉主事の職務

社会福祉法の第18条3項および4項にあるように、都道府県の場合は、福祉に関する事務所（福祉事務所）において、生活保護法、児童福祉法、母子及び父子並びに寡婦福祉法、市町村においては、それらに加えて、老人福祉法、身体障害者福祉法および知的障害者福祉法に定める援護、育成または更生の措置に関する事務を行うことを職務とします。

### （2）社会福祉主事の資格の取得

社会福祉法の第19条1項1号に、「厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目を修めて卒業した者」とあり、指定科目の中から3科目以上修得することにより資格を取得できます。

本学社会学部総合社会学科における開講科目は次のとおりです。

厚生労働大臣の指定する科目	本学開講科目	
社会福祉概論	【専攻科目】	①社会調査入門 ②社会福祉原論
社会福祉援助技術論	【専攻科目】	ソーシャルワークの基盤と専門職及びソーシャルワークの基盤と専門職（専門）及びソー

		ソーシャルワークの理論と方法及びソーシャルワークの理論と方法（専門）（要4科目履修）
社会福祉調査論	【専攻科目】	社会福祉調査の基礎
社会福祉施設経営論	【専攻科目】	福祉サービスの組織と経営
社会保障	【専攻科目】	社会保障論
公的扶助論	【専攻科目】	貧困に対する支援
児童福祉論	【専攻科目】	児童福祉論
身体障害者福祉論	【専攻科目】	障害者福祉論
知的障害者福祉論	【専攻科目】	障害者福祉論
精神障害者保健福祉論	【専攻科目】	精神保健福祉の原理
老人福祉論	【専攻科目】	高齢者福祉論
地域福祉論	【専攻科目】	地域福祉論
法学	【専攻科目】	法学概論
経済学	【専攻科目】	経済原論
社会政策	【専攻科目】	労働と暮らしの社会政策
心理学	【教養科目】	心理学
	【専攻科目】	心理学と心理的支援
社会学	【専攻科目】	社会学概論
教育学	【教養科目】	教育原論A及び教育原論B（要2科目修得）
倫理学	【教養科目】	①倫理学入門 ②倫理学A及び倫理学B（要2科目修得）
医学一般	【専攻科目】	医学概論

※ 社会福祉主事資格は任用資格ですが、社会福祉施設・機関によっては求人の際の採用条件として社会福祉主事資格取得見込を条件としているところもあるので注意してください。

※ 「倫理学入門」「倫理学A」及び「倫理学B」の3科目を修得しても、厚生労働大臣の指定する科目を3科目修得したことはなりませんので、注意してください。

詳細は下記ホームページにて確認してください。

・厚生労働省「ページ9：社会福祉主事任用資格の取得方法」

(URL) [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/seikatsuhogo/shakai-kaigo-fukushi1/shakai-kaigo-fukushi9.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/shakai-kaigo-fukushi1/shakai-kaigo-fukushi9.html)

(QRコード)



・本学履修要項WEBサイト

(URL) <https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>

(QRコード)



## 【5】 児童指導員任用資格・児童の遊びを指導する者任用資格

児童福祉施設において直接児童と関わる職種をめざす場合に有効な資格として、「児童指導員任用資格」、「児童の遊びを指導する者」があります。「児童指導員」は児童養護施設等で、「児童の遊びを指導する者」は児童厚生施設で必置とされる職種です。法律の定めにより、これら職種に任用されるための条件があります。

### 1) 児童指導員任用資格

#### (1) 児童指導員の職務

児童指導員とは、児童養護施設等において、児童の生活指導を行う者をいいます。

#### (2) 児童指導員の資格の取得

児童指導員の資格は、次のいずれかの条件を満たすことにより取得できます。

- ① 社会福祉士の資格を有する者。
- ② 精神保健福祉士の資格を有する者。
- ③ 学校教育法の規定による大学の学部で、社会福祉学、心理学、教育学若しくは社会学を専修する学科又はこれらに相当する課程を修めて卒業した者。本学社会学部はこれに該当します。
- ④ 教育職員免許法の規定により、幼稚園、小学校、中学校、高等学校又は中等教育学校の教諭となる資格を有する者で、都道府県知事が適当と認めたもの。

### 2) 児童の遊びを指導する者任用資格

#### (1) 児童の遊びを指導する者（児童厚生員）の職務

児童福祉施設の設備及び運営に関する基準の第38条にあるように、児童館等の児童厚生施設において、児童の遊びを指導する者をいいます。

#### (2) 児童の遊びを指導する者の資格の取得

児童の遊びを指導する者の資格は、次のいずれかの条件を満たすことにより取得できます。

- ① 保育士の資格を有する者。
- ② 社会福祉士の資格を有する者。
- ③ 教育職員免許法の規定により、幼稚園、小学校、中学校、高等学校又は中等教育学校の教諭となる資格を有する者。
- ④ 学校教育法の規定による大学において、社会福祉学、心理学、教育学、社会学、芸術学若しくは体育学を専修する学科又はこれらに相当する課程を修めて卒業した者で児童厚生施設の設置者が適当と認めたもの。本学社会学部はこれに該当します。

詳細は下記ホームページにて確認してください。

・ 本学履修要項WEBサイト

(URL) <https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>

(QRコード)



## 【6】 諸課程


教職課程

担当窓口・関係情報

<p>教職課程は、教員免許状の取得を目指す学生を対象とした課程です。教科等に関する確かな専門的知識はもちろん、広く豊かな教養、人間の成長・発達への深い理解、生徒に対する教育的愛情、教育者としての使命感を基盤とした、実践的な指導力を養成することを目的に設置しています。教職課程の履修にあたっては、「履修要項別冊 教職課程ガイドブック」を熟読してください。</p> <p>また、教職センターでは、教職課程履修者を対象に教員採用試験突破のための基礎力・実践力養成講座なども実施しています。</p>	<p>(担当窓口) 教職センター 深草学舎 紫英館1階 大宮学舎 西翼1階 瀬田学舎 3号館1階</p> <p>(関係情報) 教職センター HP (URL) <a href="https://www.ryukoku.ac.jp/faculty/kyoshoku">https://www.ryukoku.ac.jp/faculty/kyoshoku</a></p> 
<p>本願寺派教師資格課程</p>	<p>担当窓口・関係情報</p>
<p>本願寺派教師資格課程は、浄土真宗本願寺派における寺院の住職や布教使になるために必要となる資格課程です。本学では、本願寺派教師資格に関する養成施設としての認定を受け、資格課程にかかわる科目を開設しており、1回生から受講することが可能です（受講する場合は、科目一覧を確認のうえ、履修登録をしてください）。</p> <p>この課程は、最終的には浄土真宗本願寺派が実施する本資格に関連する試験・研修を受けなければなりません。</p> <p>資格制度の詳細について、不明な点等がありましたら、浄土真宗本願寺派僧侶養成部に尋ねてください。</p> <p>履修に関する詳細については、担当窓口にて尋ねてください。</p>	<p>(担当窓口) 社会学部教務課 深草学舎紫英館1階</p> <p>(関係情報) ・履修要項WEBサイト「学部共通の教育プログラム・諸課程」 (URL) <a href="https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html">https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html</a></p> 
<p>レクリエーション・インストラクター</p>	<p>担当窓口・関係情報</p>
<p>(財)日本レクリエーション協会の公認資格です。</p> <p>余暇やレクリエーションに関する理論と実技を学び、レクリエーションを楽しく教える指導者として、地域を中心に社会福祉や企業等あらゆる領域で活動します。所定科目の単位を修得するとともに、日本レクリエーション協会等が関係する事業へ参加し卒業すると取得できます（協会への資格取得手続きが必要です）。</p>	<p>(担当窓口) 社会学部教務課 深草学舎紫英館1階</p> <p>(関係情報) ・日本レクリエーション協会 ホームページ (URL) <a href="https://recreation.or.jp/">https://recreation.or.jp/</a></p> 
<p>健康教育専門士</p>	<p>担当窓口・関係情報</p>
<p>健康教育専門士とは「個々人の心身に応じた、安全で効果的な生活習慣改善活動を実施するためのプログラムの作成および指導を行う者」です。保健医療関係者、健康推進員など地域の人的資源と連携しつつ安全で効果的な生活習慣改善活動を実施するためのプログラム作成および実践を行います。特定健診・特定保健指導において、地域のポピュレーションアプローチを担い活躍できる人材として期待されます。</p>	<p>(担当窓口) 社会学部教務課 深草学舎紫英館1階</p> <p>(履修に関する情報) ・履修要項WEBサイト「学部共通の教育プログラム・諸課程」 (URL) <a href="https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html">https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html</a></p> 

## 【7】 特別研修講座・各種講座・試験

課程・講座	目的・内容	担当部署
国際伝道者養成課程	広く国際的な素養として英語で仏教・浄土真宗を学修することや、海外の仏教事情に関心を持つ方を対象にした課程であり、また同時に、将来、浄土真宗本願寺派の海外開教区で伝道者として活躍できる人材養成を目的とした講座です。	(深草／大宮) 文学部教務課
矯正・保護課程	刑務所、少年院、少年鑑別所等で働く矯正職員や、犯罪をおかしたり非行を行った人たちの社会復帰を手助けする保護観察官等の専門職やボランティアを養成するために、実務に即した教育プログラムを提供しています。	矯正・保護総合センター 事務部 深草学舎 4号館2階 〈各学舎申し込み窓口〉 (深草) 法学部教務課 深草学舎 紫英館1階 (大宮) 文学部教務課 大宮学舎 西翼1階
法職課程	各種公務員試験（国家一般職、地方上級等）の合格や法科大学院進学を目指す学生に対し、法律科目を体系的かつ効率的に学習できる講座や最新の試験情報などを提供しています。また、法職カウンセラーが常駐し、学習方法や受験対策のアドバイスを行っています。	法学部教務課 深草学舎 紫英館1階  (URL) <a href="https://www.ryukoku.ac.jp/faculty/syokatei/houshoku/">https://www.ryukoku.ac.jp/faculty/syokatei/houshoku/</a> 
キャリア支援講座 ※受講希望者が少ない場合、開講できないことがあります。 ※開講する学舎が限定されている講座があります。	キャリアアップに向けた資格取得や公務員試験などの対策が必須の就職を支援するために、各種講座を開講しています。資格取得等に信頼と実績のある有名予備校等と提携し、一人ひとりの目標や夢の実現をバックアップします。 〈資格系〉 宅地建物取引士講座／旅行業務取扱管理者講座／社会福祉士国家試験講座 〈語学系〉 TOEIC®Listening&ReadingTest対策講座 〈就職対策〉 公務員講座／エアライン就職対策講座	キャリアセンター 深草学舎 5号館1階 大宮学舎 東翼2階 瀬田学舎 1号館1階
社会福祉士国家試験講座（キャリア支援講座）	社会福祉士受験資格科目を体系的に理解して、社会福祉士国家試験合格を目指します。高い合格率を誇っています。	キャリアセンター 深草学舎 5号館1階

<p>手話講座</p>	<p>社会福祉法人全国手話研修センターとの連携事業により、「手話コミュニケーションコース」「手話ステップアップコース」「手話通訳コース」を実施します。「手話コミュニケーションコース」では全国手話検定試験2級レベルを、「手話ステップアップコース」では全国手話検定試験1級レベルを目指し、「手話通訳コース」では手話通訳者全国統一試験に備える力を養います。</p>	<p>REC事務部 深草学舎 4号館2階</p> <p>社会福祉法人全国手話 研修センターホームページ (<a href="https://www.com-sagano.com/kenshu/ryukoku">https://www.com-sagano.com/kenshu/ryukoku</a>)</p> 
-------------	---	---